

シュッコンカスミソウにおける採花後の前処理剤の違い、および栄養補給剤の使用が日持ちに与える影響

シュッコンカスミソウ「アルマイル」および「ベールスター」は、①採花後に STS と糖と抗菌剤を含む前処理剤を用い、②糖が含まれる栄養補給剤を用いることで、日持ちが延長する。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 熊谷寛)

研究のねらい

シュッコンカスミソウは、収穫後の切花をエチレン生成阻害剤 (チオ硫酸銀: 以下、STS) で前処理することで日持ちが向上し、糖を吸わせることで生け花後の開花が良いことが明らかにされている。そこで、シュッコンカスミソウ「アルマイル」および「ベールスター」の採花後の前処理剤の違い、および糖を含む栄養補給剤の使用が日持ちに与える影響について明らかにする。

研究の成果

1. 日持ち日数は、「アルマイル」および「ベールスター」ともに、前処理剤として STS と糖と抗菌剤を含むクリザールかすみの使用でもっとも長く、前処理後に栄養補給剤を使用することで日持ち日数がそれぞれ延長する。前処理剤として STS のみを含むクリザール K-20C を使用したもの、および無処理については、「アルマイル」において栄養補給剤を使用しても日持ち日数は延長しないが、「ベールスター」では延長する (図 1)。
2. 相対新鮮重は、「アルマイル」および「ベールスター」ともに、前処理剤としてクリザールかすみの使用で増加し、さらに栄養補給剤を用いることで、その減少率は緩やかとなる。前処理剤としてクリザール K-20C を使用したもの、および無処理については、「アルマイル」において前処理直後より相対新鮮重が減少しており、栄養補給剤を使用しても同様の傾向であるが、「ベールスター」では減少率が若干緩やかとなる (図 2)。

普及上の留意点

1. 供試した「アルマイル」及び「ベールスター」は、熊本県農業研究センター内のガラス温室にそれぞれ平成 26 年 8 月 29 日に定植し、「アルマイル」は 11 月 10 日に、「ベールスター」は 11 月 19 日に採花したものをを用いた。
2. 本試験は、クリザールかすみを 20 倍で、クリザール K-20C を 1000 倍で使用し、20℃・24 時間・暗黒条件下で前処理を行った結果である。

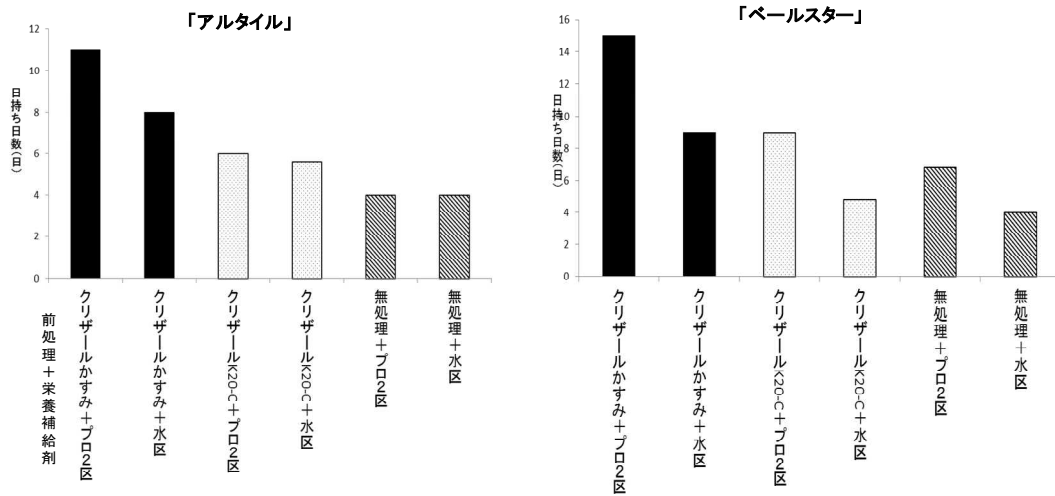


図1 前処理剤の違いおよび栄養補給剤の使用が日持ち日数に与える影響

- 注1) 栄養補給剤は、クリザールプロフェッショナル2を100倍で使用した。
- 注2) 日持ち調査は、25℃・1000lux・12時間証明に設定した恒温室内で行い、水および栄養補給剤は毎日交換した。
- 注3) 日持ち期間は、開花ステージのそろった分枝2ヶ所に印をつけ、開花小花数のうち萎凋小花数が半数を超えた時点とした。
- 注4) クリザールかすみ: 主成分がチオ硫酸銀、糖類、抗菌剤の生産者用切花鮮度保持剤
 クリザールK-20C: 主成分がチオ硫酸銀の生産者用切花鮮度保持剤
 クリザールプロフェッショナル2: 主成分が糖類、有機酸、抗菌剤の切花栄養補給剤

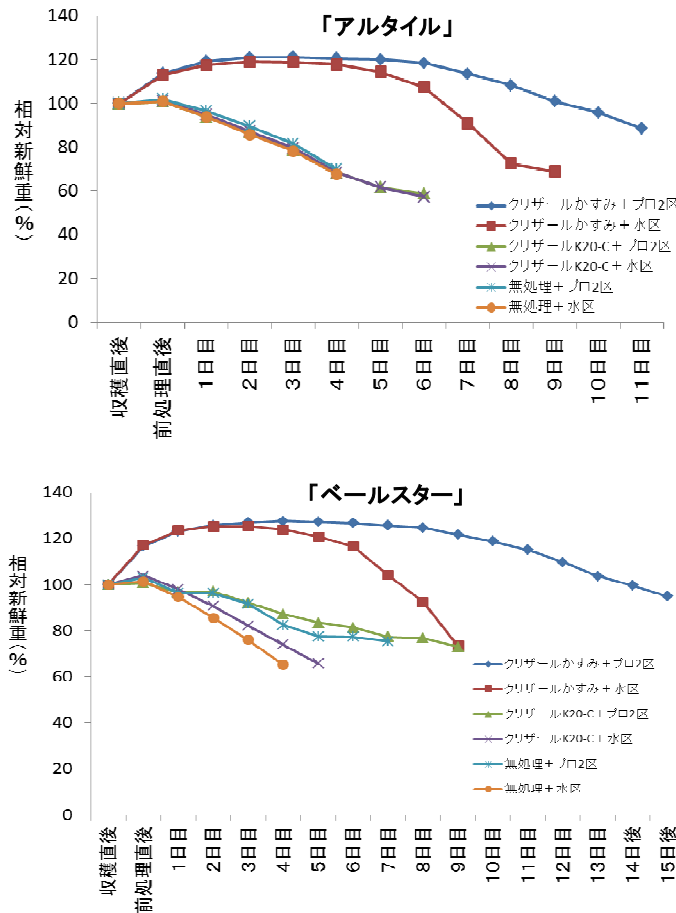


図2 前処理剤の違いおよび栄養補給剤の使用による相対新鮮重の推移

